

特別展 デュオ・カサド



期間 2017年1月22日(日)まで
場所 玉川大学教育博物館 第2展示室
 20世紀を代表する世界的音楽家・チェリストのガスパール・カサドと、その妻で国際的に活躍したピアニストの原智恵子。夫妻が「デュオ・カサド」として演奏活動を行った1962～66年を中心に、音楽家としての歩みや二人の残した多くの功績を紹介する特別展。12月9日、1月17日にギャラリートーク、1月15日にはチェロとピアノのミニコンサートも。入館無料 休館日有
 ☎042-739-8656

町田市考古資料室特別展 「忠生遺跡セレクション」



期間 2017年3月26日(日)まで
場所 町田市考古資料室
 関東でも有数の規模を誇り、市内最大の遺跡である忠生遺跡から発見された考古資料の特別展。旧石器・縄文・平安時代の集落と、古墳時代の横穴墓から発掘された代表的な石器や土器、金属製品など約200点を公開中。「市立室内プール」バス停から10分。第2・4土日(年末年始を除く)の10時～16時開室。入室無料
 ☎考古資料室 042-797-9661(開室日のみ)
 ☎生涯学習総務課 042-724-2554(月～金)

親子でヤキイモプロジェクト



期間 11月～2017年2月頃
場所 町田市内の各会場
 町田市社会福祉協議会のボランティアセンター運営委員会による発案で、地域活動に関わるきっかけづくりやご近所のつながり、異世代交流を育むことを目的に2013年に始まった親子でヤキイモプロジェクト。年々、開催団体、参加人数ともに増加し、今年度は年末年始をはさみ14箇所で開催予定。日時や場所、主催団体等の詳細は社協HPから。
 ☎町田市社会福祉協議会 042-725-4465

森村誠一の写真俳句コンテスト 入選作品展



期間 12月1日(日)～2017年1月29日(日)
場所 町田市民文学館ことばらんど
 2006年10月に開館した文学館の開館10周年を記念して開催された「森村誠一の写真俳句コンテスト」。写真俳句とは、作家が町田市在住の森村氏が提唱する写真と俳句を組み合わせた新しい表現手法。森村氏が撮影した四季折々の写真に合わせた俳句を一般公募、投句された中から森村氏の選句を経て決定した天、地、人の各5作品、合計15点の入選作品を紹介する。
 ☎042-739-3420

キャノンイーグルス いよいよシーズン終盤戦



ラグビーW杯で南アフリカを破り、人気高まる 日本ラグビー界。町田がホームのキャノンイーグルスが戦うトップリーグも残すところあと6戦(2016年11月現在)。
 12月18日 vs NECグリーンロケッツ
 12月24日 vs クボタスピアーズ
 1月8日 vs NTTコミュニケーションズ シャイニングアークス(いずれも秩父宮ラグビー場で開催)。11月19日はキャノンスポーツパークでヤマハ発動機ジュビロと練習試合(観戦無料)を行う。
 ☎キャノンスポーツパーク 042-735-8058

圧倒的な迫力の実力派 和太鼓「東京打撃団」



期間 2017年1月7日(土)16:00開演
場所 町田市民ホール
 高い演奏技術に裏打ちされた音楽性と力強く楽しい舞台を目指し、東京を拠点に活動している「東京打撃団」の町田公演。イベントや映画出演、舞台への楽曲提供や太鼓指導、EXILE全国ツアーに演奏参加する等国内外で幅広く活躍する彼らが、圧倒的な音圧と繊細な演奏で楽しく舞台を駆けめぐる!全席指定 一般3,000円 高校生以下1,500円(6歳以上入場可)
 ☎町田市民ホール 042-728-4300

まちびと写真館

其の伍

原町田町(現・町田市原町田) 1930年頃



原町田4丁目の現在の様子。
 当時と同じ場所に店を構える河原本店の手前は駐車場になっているが、昭和初期には呉服の豊田屋、奥には郵便局があった。

「日本地理風俗体系」を編集した人
 仲摩照久氏



©株式会社 誠文堂新光社

昭和初期の原町田商店街

鎌倉時代から交通の要衝地として栄えてきた町田。当時は宿が置かれた本町田が一番の繁華街で、原町田は農地や原野が一面に広がっていた。後にそこを開墾して出来た町であることから「原町田」と呼ばれるようになったという。

原町田商店街の発祥は16世紀後半。「二七の市」と呼ばれる市が開かれていた本町田村から、これを分けてもらい市を開設したのが始まりと言われる。本町田は「七の市」、原町田は「二の市」になり、本町田の市はその後衰退したが、原町田は炭や薪、蚕糸、畑作物のほか様々な品物が並び、文政・天保年間頃(1818～1843年)には「二・六の市」となり月に六回の市が開かれるようになった。

そして1859年に横浜が開港すると、原町田は八王子から横浜へ生糸を運ぶための絹の道、所謂シルクロードの中継地として各地から生糸商人が集まり、市の規模も大きくなっていった。1908年に横浜線が開通し交通の便が更に良くなると、市の日以外にも人々が集り、商業の街としての形が整っていった。

(参考) 仲摩照久編「日本地理風俗体系」第三巻 新光社、1930年